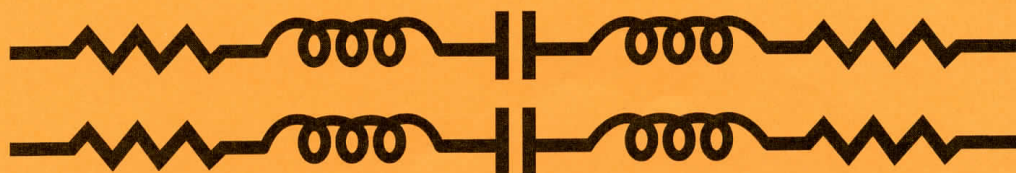


岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 55 号

2009 年 3 月 発行

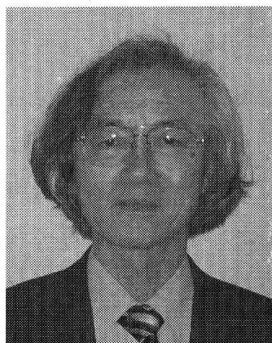


目 次

会長挨拶	会長 柏葉安兵衛	1
電気電子工学科の近況	学科長・専攻長 岡 英夫	2
情報システム工学科の近況	学科長・専攻長 千葉則茂	4
平成 20 年度総会特別講演	小野寺瑞穂	6
東京支部からの寄稿		8
太田原功先生瑞宝中綬章受勲祝賀会報告		12
草刈賞		14
第 5 回（平成 19 年度）草刈賞受賞者		15
《支部だより》 平成 20 年度東京支部大会		18
平成 20 年度仙台支部総会		19
平成 20 年度盛岡支部総会		20
平成 20 年度電気電子情報科会総会		21
平成 20 年度電気電子情報科会総会議事録		22
平成 19 年度決算書		23
平成 20 年度予算書		23
平成 20 年度電気電子情報科会役員名簿		24
総会添付資料		25
平成 20 年度電気系学科の構成員名簿		27
平成 20 年 年表		28
岩手大学電気電子情報科会会則		31
編集後記		32
平成 21 年度総会並びに懇親会開催のご案内		裏紙

ご 挨拶

会長 柏葉安兵衛（昭和 38 年卒）



未曾有の不況といわれておりますが、会員の皆様には恙無くお過ごしのことと存じます。平成 20 年 6 月の総会で佐々木喜八郎前会長から会長職を受け継ぐこととなりました。もとより会員数 5000 名という本会会長の器ではなくご辞退申し上げましたが、結局引き受けてしまいました。かくなるうへは会員各位のご協力を得て役目を全うしたいと考えておりますので、ご支援をお願い申し上げます。幸い、科会活動に熱心な会員がたくさんいらっしゃいますので、大変心強い限りです。法人化された大学にとって同窓会はますます大きな役割を果たすと考えますが、東京で行われる大学の諸行事への東京支部の積極的な協力は、高く評価されております。

大分以前、科会の運営は新入生からの入会費と基金の利子だけでまかなわれていました。しかし学部入学定員の削減や低金利政策によって、科会の収入がどんどん落ち込み、ここ 5 年ほど前までは基金を毎年 100 万円ほど取り崩して一般会計（運営費）に注入しなければならず、科会は間もなく運営不能という状況にありました。佐々木前会長は、科会の大問題であった科会財政について、太田原前々会長が導入した「年会費制」を実施に移し、財政基盤の強化を図ってこられました。これは年会費 1000 円を、10 年毎にまとめて 1 万円納入して頂くものです。お陰様で財政は大分改善されて参りましたが、毎年の運営に十分な状況ではありません。納入率はまだ 30% ほどですので、未納の方には是非納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。これからは、財政と相談しながら会誌「きたかみ」の充実を図りたいと思っています。今号（55 号）では、試みとして東京支部に 4 頁の寄稿をお願いしましたのでご覧になってください。

去年は、春の叙勲で相馬重信氏（昭和 23 年卒）と太田原功先生（昭和 30 年卒）が受章されるなど嬉しいニュースがありましたが、後半は 100 年に一度という大不況に陥ってしまい、岩手で起きた大地震の被害もかき消されたほどの深刻な問題となっています。大変ご苦勞なさっている会員諸兄もいらっしゃるのではないかと心配しています。

工学部はこの春から、7 学科を 5 学科に再編することになり、電気電子工学科と情報システム工学科が一緒になって「電気電子・情報システム工学科」が誕生するとうかがっております。科会の母体となる新学科が大いに発展することを期待する次第です。

母校の電気電子、情報の卒業生の就職状況は大変好調だったようで、喜ばしい限りです。これも日ごろ学生教育に努力されている先生方と、長年にわたって社会で活躍し母校の高い評価を定着させた皆様会員の賜物であり、深く敬意を表するものです。しかし、来年度は厳しい状況が予想されますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。一方、このところ工学部の入学志願倍率が低いことが先生方の心配事のようにです。電気系学科も例外ではありませんので、会員の周りで受験生がおりましたなら、是非岩手大学電気電子・情報システム工学科の受験をお勧め願います。

今回の不況は、底の見えないところに大きな不安があります。このようなとき、本部、支部の総会や懇親会での情報交換には、何か良いヒントがあるかもしれません。是非ご出席ください。この厳しい状況を新しい発展へのチャンスに変えていきたいものです。

会員の皆様のご健康とご健闘を心からお祈り申し上げ、ご挨拶といたします。

電気電子工学科の近況

電気電子工学科 学科長・専攻長 岡 英 夫

電気電子情報科会会員の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

エレクトロニクス分野の目覚ましい発展により、情報家電機器のワイヤレス化、家事・介護用ロボット、電力伝送のコードレス化、地上波デジタル化さらに電気自動車の普及、クリーンエネルギー開発など益々エレクトロニクス技術者が社会において必要不可欠な存在になっております。今年度においても本専攻院生及び本学科学生が殆ど希望通りの大企業等に推薦で内定を頂いております。これもひとえに長年に亘る電気電子工学科卒業の諸先輩の活躍による信用により大手企業の推薦枠が確りしているからだと心から感謝致しております。後輩にとって伝統ある電気系学科に在籍し、社会からの受け入れが確かなことに夢と希望を持って勉学に励めることは、なによりの先輩からの財産であり今後もこの推薦枠を堅持できるよう学科一丸となって教育研究に励む所存でおります。

今年も本学科を卒業された社長経験者を講師にお招きし、豊富な経験を基に通常の講義では網羅できない話題内容を含む社長実践学特別講義を実施致しました。佐藤一男氏（元日立製作所専務取締役、(独)宇宙航空研究開発機構 JAXA 信頼性評価委員会委員長）など多数の諸先輩による講義の他、学科特別講義・電気学会特別講演による佐藤秀隆氏（NTT ファシリティーズ(株)研究開発企画部門総括担当部長）などによる最新の NTT グループでの情報通信に関する研究開発状況及び日本代表として国際規格会議で外交交渉を行ったことなど大変興味ある講演を戴きました。これから社会に飛び立つ学生にとって大変有意義な講義となっております。さらに、毎年実施しております関東・東京方面への3年次学生の工場見学では、今年度は

三菱重工業(株)横浜製作所、(株)東芝浜川崎工場、富士通(株)川崎工場・研究所、(株)NTT ドコモ R&D センター等日本を代表する企業を見学してきました。また、県内企業の工場見学としては、東京エレクトロン東北(株)、東北日本電気(株)および NEC トーキン(株)岩手事業所を見学してまいりました。各企業では本学科卒業生から心温まるお世話を戴きました。

さらに、1年次学生には、基礎ゼミナールの一環として5月に1泊2日の合宿研修（岩手山青年の家）で、電子工作・グループディスカッション・スポーツレクリエーションを、1年生担任を中心に若手の先生方および大学院生により実施致しました。学生同士の親睦、学生と教員・大学院生との交流の場として有意義な2日間でした。また、8月には ET ロボコン 2008 北海道・東北地区大会で、電気電子工学専攻院生と情報システム工学科学生がチームを結成して参加し、競技部門で3位入賞を果たしました。

一方、教職員の熱心な指導体制により、電気電子工学専攻の院生は英国で開催された国際会議はじめ国内外で開催された電気関係学会及び国際会議等で活発に論文発表を行いました。また、最近では、会員の先輩方の電気学会技術委員会などでの活躍、さらに国際会議会場での後輩の論文発表に対するご指導など心から感謝しております。なお、今年も GHz 帯用木質系電波吸収ボード研究に対し電気学会最優秀論文発表賞、パルスパワー及び放電に関する研究に対しては電気学会・放電学会最優秀論文発表賞等が授与されました。また、文部科学省「21世紀 COE プログラム：植物の発熱制御システムの研究」（農学・工学）として工学部から長田先生が参加しております。

次に、電気電子工学科・専攻の主な研究テー

マについて紹介致します。

- ①酸化物超伝導薄膜の作製とその応用(道上)、
- ②GHz帯木質系室内用電波吸収デバイスに関する研究(岡)、
- ③地上波デジタルテレビ放送用アンテナの研究(久保田)、
- ④薄膜リチウムイオン二次電池の開発(馬場)、
- ⑤半導体の第一原理電子構造解析(西館)、
- ⑥微細構造の創製および有機デバイスへの応用研究(叶)、
- ⑦産業用CTスキャンと超並列処理(田山)、
- ⑧超大規模集積回路による専用プロセッサの研究(恒川)、
- ⑨温度センシングと制御に関する研究(長田)、
- ⑩レーザー SQUID 顕微鏡の研究(大坊)、
- ⑪リアルタイムシミュレータの開発とシステム制御の研究(佐藤)、
- ⑫エネルギー・環境、プラズマエレクトロニクスに関する研究(藤原)、
- ⑬クリーンエネルギー発生を目指した固体内核反応に関する研究(山田)、
- ⑭高圧パルスパワーの産業応用に関する研究(高木)、
- ⑮凝集系における低エネルギー核反応の研究

(成田)、⑯マイクロプラズマの実験的・理論的研究(向川)、⑰プラズマ中性子加速機構に関する研究(高橋)。

さらに、最近の外部資金の取得状況ですが、①科学研究費 基盤研究(B):岡、長田、高木、基盤研究(C):田山、藤原、成田、若手研究(B):高橋、②民間との共同研究:道上、藤原、岡、恒川、高木、長田、大坊、③受託研究:道上、岡、④奨学寄附金:山田、岡、高木、成田、高橋となっております。会員の皆様と母校との共同研究さらに博士後期課程(社会人入学)として博士(工学)の学位取得など益々活発な研究協力関係が進むことを念じております。

最後になりましたが、これからも社会が求める優秀な人材の育成に努めて参りたいと思います。会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り致しますと共に、今後とも、より一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



㈱東芝浜川崎工場 (電気電子工学科3年次工場見学)

情報システム工学科の近況

情報システム工学科 学科長・専攻長 千葉 則 茂

電気電子情報科会会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

電気電子情報科会に関わる大きな変化として、平成 21 年度からの工学部・工学研究科の改組が挙げられます。少子化による学部入学の志願者数の減少と、その一方で大学院への進学率の上昇に対応するための定員の適正化、また人間や環境に優しい工学に対する社会からの要請への対応を目的として実施されます。本学では、このような工学大系をソフトパスエンジニアリングと呼びその実現を目標に掲げております。

この改組計画では、現在の 7 学科を、応用化学・生命工学科、マテリアル工学科、電気電子・情報システム工学科、機械システム工学科、社会環境工学科の 5 学科に統合・再編することになります。また、工学研究科については現在の博士前期課程 9 専攻を応用化学・生命工学専攻、フロンティア材料機能工学専攻、電気電子・情報システム工学専攻、機械システム工学専攻、社会環境工学専攻、デザイン・メディア工学専攻、金型・鋳造工学専攻の 7 専攻に、博士後期課程は現在の 3 専攻からフロンティア物質機能工学専攻、電気電子・情報システム工学専攻、機械・社会環境システム工学専攻、デザイン・メディア工学専攻の 4 専攻に、再編・新設になります。現在の電気電子工学科と情報システム工学科は改組後の「電気電子・情報システム工学科」を構成し、電気電子工学コースと情報システム工学コースを設けて教育にあたります。

また、情報システム工学コースの主にメディアシステム学分野の教員はデザイン・メディア工学専攻のスタッフとなります。この専攻は、環境系教員と教育学研究科の芸術系教員もスタッフとして参画し、＜環境、プロダクト、コ

ンテンツ＞のデザインからなるデザイン工学とメディア工学からなる融合分野の教育を担当します。そのため、電気電子・情報システム工学科の卒業生は、「電気電子・情報システム工学専攻」か「デザイン・メディア工学専攻」に進学することが可能となります。

日本では電気電子系学科を母体として設置されたところが多い情報系学科ですが、これまで情報システム工学は電気電子工学とは異なる独自の発展を遂げてきており、電気回路や電磁気学などの物理を基礎としない学問領域が拡大の一途をたどっております。そのため、共通とする学問領域は昔ほど大きいとは言えませんが、一方では日本が強みとする組み込みシステムの発展と特に組み込みソフトウェアの巨大化により、電子制御工学やソフトウェア工学などの両者の近接領域の協働が強く求められております。今回の改組による学科の統合の意義もここにあります。

このような時代を反映した学生による協働の例として、「ET ロボコン 2008 北海道・東北地区大会」（社団法人 組込みシステム技術協会主催）への両学科の学生で構成したチームの参加が挙げられます。電気電子工学専攻 1 年の佐藤幸太君と情報システム工学科 4 年の吉田亮太君のチームが、レース部門 3 位、総合 10 位の成績を収めました。

当学科の今年度の社会貢献としては、「平成 20 年度 盛岡広域地域産業活性化人材養成等事業」への協力が挙げられます。具体的には、RoboDesigner によるロボット創作講座（今野准教授担当）、ネットワーク組み込み養成講座とソフトエンジニア養成講座（厚井教授担当）、コンテンツ企画・制作講座（千葉担当）の 4 つの講座とインテリジェントシステム・先端技術

セミナー、インテリジェントシステム・シンポジウム、コミュニケーションデザイン工学セミナー、コミュニケーションデザイン工学シンポジウムの4つの講演会型イベントを実施しました。

また、全国的にも珍しい外国の中小企業との共同研究に向けた秘密保持契約が、中国企業である大連泰康科技有限公司と岩手大学（千葉研究室担当）との間で調印されました。

国際交流としては、本学科が中心となり工学部と「モンゴル科学技術大学」（学生数2万人）の「通信と情報技術学院」（学院は学問分野は日本の学科に対応しますが、学生規模は学部レベルです）と結んでいた部局間学術交流協定を他の学院全体へ拡大するために、工学部とモンゴル科学技術大学全体との交流協定に改訂しました。調印は、9月入学支援経費の事業として、モンゴル科学技術大学から副学長と主に学院長からなる6名の教員を招聘した際に行われました。滞在中には、本学の施設や工学部のほとんどの研究室を見学してもらい、今後の学術交流、特に本研究科博士後期課程への学生の受け入れのために理解を深めて頂きました。

また、吉森准教授が、在日本キルギス共和国大使からの要請で、9月20日から10日間、キルギス共和国の、キルギス工科大学、キルギス・スラヴ大学、キルギス・マナス大学、国立ITセンターをはじめとする教育研究機関を訪問し、情報システム工学科との学術交流の可能性について調査を行いました。

研究面では、今年も学生を中心とした研究発表に対して以下のような多くの授賞がありました。学会名、受賞名、受賞者、研究論文題目を以下に示します。

①情報処理学会、第70回情報処理学会全国大会・学生奨励賞、阿部真也（前期課程2年、西谷・平山研究室）、「MPIプログラムのためのランダム遅延によるUnit Testing Framework」

②芸術科学会、第24回NICOGRAPH論文コンテスト・最優秀論文賞、Zorig Gunjee（研究員）、Tadahiro Fujimoto, Norishige Chiba, “Omnidirectional Shadow Mapping for Translucent Points”

③芸術科学会、第24回NICOGRAPH論文コンテスト・優秀論文賞、黄海浪（前期課程2年）今野晃市、金野哲士（岩手大学）、千葉史（ラング株）、「3次元座標点群を用いた土器片マッチングと姿勢最適化アルゴリズム」

④芸術科学会、第24回NICOGRAPH論文コンテスト・審査員特別賞、東祐太郎（前期課程2年）、今野晃市、徳山喜政（東京工芸大学）、「分散環境における形状参照操作を用いた大規模ポリゴンモデルの領域分割についての検討」

⑤芸術科学会、第24回NICOGRAPH論文コンテスト・審査員特別賞、ソソラバラム バトゥジャルガル（研究員）、藤本忠博、千葉則茂、「平面状物体の風による揺らぎのノイズベースアニメーション法」

⑥IEEE Sendai Section, STUDENT AWARD:「THE BEST PAPER PRIZE」, MENENDEZ Francisco（博士3年、千葉・藤本研究室）, “Automatic Calibration of Laser Projector Arrays”

地方はまだまだ少子化が止まらず、また工学部、特に電気電子や情報系学科の人気の低迷し、まさに冬の時代ではありますが、教職員一同努力していく所存ですので、会員の皆様には益々のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

－平成 20 年度総会特別講演－

「方言なんだりかんだり ～昔話をかたる～」

小野寺 瑞穂氏（電気 29 年卒）



私は昭和 25 年に入学して 29 年 3 月に卒業しました。25 名入学（内 5 名は教養課程のみ）、半数の 10 名は同じ高校出身でした。本日叙勲の祝意を受けられた太田原功先生は、高校時代からの友人で同期入学でしたが、ご病気のため卒業は 1 年ずれました。お世話になった 1 年先輩の前会長佐々木喜八郎氏はクラスメートの気持ちをつかむのがうまく、大学祭の演劇公演では、クラス全員が一致協力するという有様で、常にリーダー的存在でした。演劇に、テニスに、ダンス、フィギュアスケート（国体選手）と、大変な人気者。私は演劇で佐々木さんの指導を頂き、放送に関わるきっかけも佐々木さんの紹介によるものでした。

一年生冬から NHK 盛岡放送劇団員となり、多くのラジオドラマに出演しましたが、生放送の時代のこと、12 年間も続いたレギュラー番組などは、学校は休んでも放送は休めなかったとか、いろいろなエピソードも有りますが割愛しましょう。NHK 全国番組コンクールでは三年連続優秀賞を獲得するなど、また NHK 東京では FM シアター「北の祭り」に出演、文部大臣賞を頂きました。テレビになり岩手放送にも出演、ドキュメンタリー番組のナレーションを担当。初の全国民放連金賞受賞をもたらすなど、趣味の仕事で多くの思い出を残しました。昭和 50 年 NHK 盛岡で、「とっておきの話」というコーナーで民話を語り、当時の民話ブームに

乗って、以来、市内は勿論各地に民話を「出前」。大きなイベントなどで、全国的に盛岡の紹介の一役を担っています。なんといっても思い出に残るのは平成 4 年に電気科会 50 周年の記念式典で司会をやらせていただき『電気科会よ永遠に』という記念ビデオテープのナレーションをつとめたことでしょう。退職後も声優の仕事の続け、岩手めんこいテレビの番組を持って 12 年。同局制作「銀幕人生 55 年」で全国準優勝と、いまだに頑張っています。「雉も鳴かずば撃たれまいに」と言いますが、理事会席上で「今年は文化的視点で・・・」と言ったばかりに自分にお鉢が回ってきました（苦笑）。

民話とは庶民の間で生まれ、庶民によって語り継がれた話で口承文芸のことです。民間説話の略語と考えられます。民話には大きく分けて、次の三つのものが含まれます。①昔話…こどもに聞かせる話で、「昔むが～しあるところに…」と始まる。時代は「昔々」、場所は「ある所」で不明、「主人公」のみははっきりしている。途中は「…だどさ」「だったど」と又聞きだと断りながら話が続き、終末は「どんどはれ」で終わります。一定の叙述形式を持ち、文学的で、夢を持たせながらも、子供に対して物事の善悪や、因果応報など人生訓がこめられています。お話の経過は、「…んだったどさ」、「だったど」、又聞き、人聞きだと断り、責任回避するのも特徴です（笑）。終わりの言葉は、岩手県の大部分、旧南部領では、「どんどはれ」とか「どっとはれ」と言うなど一定の形式を持っています。県南部や、旧伊達領では、「一期栄えた」から変化した「えんつこさげだ」や、「えんつこまんまんとさげえだど」などといひます。秋田県境に隣接する湯田、沢内地域では「とっぴんばりのぷー」といひます。きのこの産地である岩泉町では、定形の「それべえり」「そればっかり」

のほかにお年寄は「そればかりキノコ汁」とも言ったとか。聞き手はすかさず「結構まっこうキノコ汁」と合の手を入れて両者の掛け合いで盛り上がります。土地柄とはいえ面白いですね。②伝説は決まった叙述形式は無いが、主人公・場所が明確で具体的な事物について現実的に語られるもので青年を対称に語られ処世訓を与えるものも有ります。③世間話。噂話…奇事異聞、有りうるべからぬことがあったこととして伝えられる話。以上の三つに大別されます。

皆さんご存知の座敷ぼっこの昔話をしましょう。旧家の奥座敷などに住み着いているといわれ、それがいるうちは繁盛し、いなくなると家運が傾く前兆と言われています。遠野や県南各地で「ざしきぼっこ」県北では「ざしきわらし」と言っています。二戸市金田一温泉の緑風荘に「座敷わらし」が住むと全国的に有名で、因みに「ぼっこの部屋」の宿泊予約が殺到し、09年度の予約は08年3月から受付だとか。余談ですが、昨晩は劇団四季の「ユタと不思議な子供たち」の盛岡公演が催され盛況でした。伝説では5～6歳の幼童とも、10～12歳位ともいわれ、男の子か女の子か、興味のあるところですね。その家の運命に関係があると信じられている精霊だが、果たして如何なる行動をとるのでしょうか？ここで遠野物語に伝わる「座敷ぼっこ」の話、紫波町黒森に伝わる比較的新しい現代の民話「黒森の座敷わらし」の伝説を語ることにしましょう。（遠野物語と黒森のざしきわらしの伝説を語ったが紙面の関係で省略）

続けてもう一つ、本日に関わりのある郷土の伝統行事の由来話を語りましょう。今日はみちのく岩手の初夏の風物詩として知られるチャグチャグ馬コの日であります。昔から6月15日と決まっておりましたが、平成13年から電気電子情報科会総会に集まる会員のために？毎年6月第2土曜日に開催する事になりました（笑）。滝沢村の駒形（蒼前）神社を着飾った馬に子供を乗せて朝出発し、夕顔瀬橋、盛岡駅、開運橋を経由して、大通り～県庁を経て、中津川で休息をとり、15キロの道のりを、約4時間かけて盛岡八幡宮がゴールです。盛岡八幡宮で祈願します。

岩手の伝説「チャグチャグ馬この由来」
むが～し昔、盛岡さ鍛冶屋長者と呼ばれる長者様があつたど。昔は鍛冶屋だつたど。欲たがりな長者は「それ仕事だ。稼げ、稼げ」牛馬は勿論雇い人をこきつかつてだど。ある時青みががった毛並みの見事な黒毛の馬こ手に入れて皆で蒼、蒼って愛ごがっていだつたど。ところがろくに餌も食わせねで、朝から晩までこき使つたもんだがら、すっかり痩せ衰えですまつたど。ある年の旧暦の五月の節句の日のごど、この日ばかりは仕事を休ませて、働く馬も労らねばねのに、「今日も仕事だ。稼げ、稼げ」ど田さ追い出したど。そしたら蒼がいきなり手綱振り切つて走り出したど。見れば蒼の背中さ白髭のみかげね爺さまが乗はてらけど。「どこの爺様だ。馬泥棒だ！捕まえろ」長者の一声で雇い人達あ追いかけどが蒼の足速くて峠の向こうさ見えなくなつてだけど。岩手山の麓まで追つかけどが鬼越し峠で泡吹いで死んでる蒼を見つけだど。さでは、白髭の爺さまは、馬の神で蒼を助けに来たんだべ。無情えごどしたど村人達あ蒼を手厚く葬つて、その上さ祠建てだど。それから毎年節句の日にこの神社さお参りして、馬を勞り感謝して、綺麗に着飾つて盛岡の八幡さんまでチャングチャングど行進するようになったど。どんどはれ。

最後に宮沢賢治の「チャグチャグ馬っこ」朗読してお終いといたします。

夜明けには
まだ間あるのに
下のはし
ちゃんがちやがうまこ見さ出はた人
下のはし
ちやがちやがうまこ見さ出はた
みんなのながさ
おどともまざり（大正6年5月・二首略）

時間がまいりました。ご清聴有難うございました。

（澤藤東京支部長聞き書き）

－東京支部からの寄稿－

科会設立の理念を見直そう

幹事・東京支部 S37 電気 柴 田 隆 昭

1. 「大学力」なる言葉

ネットで「大学力」なる言葉を検索したら、九州経済産業局調査課長松田一也氏の大変素晴らしい「定義」に遭遇した。それによれば①研究力(魅力的な研究者群、研究テーマ、研究プロジェクト、組織、吸引力)、②教育(個々の学生、留学生、社会人教育、インターンシップ)、③社会貢献(産学連携、技術移転等)、④若さ、エネルギー、企業家精神など、⑤場の力、集う力(クラス会、同窓会力など)、⑥歴史・伝統・イメージ等々の「力」に分類し紹介していた。

2. 今、時代の変化とともに大学同窓会の在り方が問われている

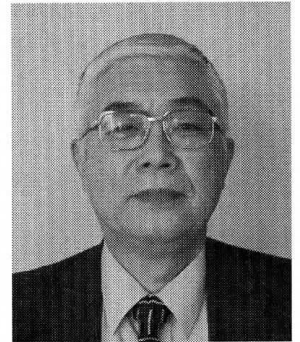
今更私が唱えるまでもなく我が国は大学全入時代に入り「大学間競争」の時代であると云われている。これは大学そのものもさることながら、大学を取り巻く様々な事項が評価される「大学力」が問われる時代になったことである。かつて(平成18年)朝日新聞の夕刊「大学就職シリーズ」では同窓会組織は“学生の就職の応援団”であり“研究室を繁栄させる支援者”であるべきと報じている。勿論、表面化させてはいないがリクルート活動を通じて大学を支援・応援したと云われる方も多くおられるだろう。

3. 他大学の同窓会は何を目指しているのか

翻って、他大学の理工系同窓会の「会則」や「定款」をネットで入手し調べたら、その殆どが「支援」する……、あるいは「応援」する……等の文言が躍っている。特に私学の同窓会はその「設立目的理念」は『親睦』と当該組織の『支援・応援』を表明している。当然のことと思われるが法人格を有している同窓会の中には、有名な一橋大学の如水会のように、東京のど真ん中に会館を有し、ホテル事業のような営利事業を行っている同窓会もある。

4. 我が同窓会は目的達成事業の「理念」を見直すべきではないか

ところで我が科会の会則を参照すれば、第2条の目的達成条項にその理念が謳われており「親睦を図り緊密な連絡をとり、工学に関する知識を交換する」とある。しかし残念ながら支援、応援なる言葉は何処にも見当たらない。我が電気電子情報科会の設立は第一回生が卒業した昭和17年に、故草刈遜先生の卓越たる指導の下、設立したと聞いている。その時の第一回生である阿部源祐氏が卒寿過ぎ未だ持って余裕綽々、ご健在で科会顧問としておられるので、その頃の経緯を伺い参考にするのも良い。



5. 目的達成事業の理念を拡くすることを提案

会則の具体的な記述はともかく、第2条関連では「親睦を図り、緊密な連絡をとり工学に関する知識の交換」から脱却し、一步も二歩も前に進むことを提案したい。即ち「電気系学科を支援する」という趣旨を盛り込むことも考えられる。

6. 仏作って魂入れずでも困るが

当然のことながら「会則」の目的条項と目的達成条項を見直ただけでは、まさに仏のみ作りその魂が忘れ去られても困ることで、やはり具体的な行動が伴う必要がある。そのためには会を活性化させる多くの具体的な活動を創造し、会の様々な会合に多くの同窓生から関心を抱いてもらう必要があろう。(以上)

なお、ここで述べた意見は平成18年の本部総会、仙台支部総会(19年)、東京支部総会(19年)で諸兄に配布したものを基に作成したものである。

器 の 話

幹事・東京支部 S47 電気 山 田 均

突然ですが、「器」のことを書いてみたいと思います。

昔から人間の人格を呼称するときに「大器晩成タイプ」とか「器のでかい人」と言われます。すなわち心の入れ物を称しているわけですが、私の話は花やお酒、食べ物入れ物のことで、陶器について紹介したいと思います。

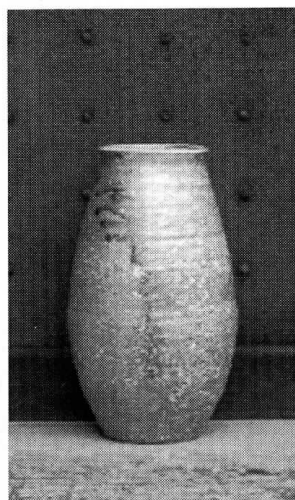
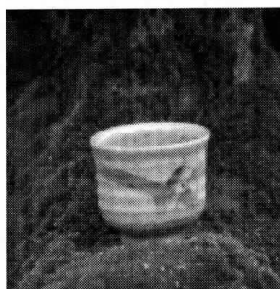
私が陶器の作陶を初めて16年になります。そのきっかけはきわめて単純、美味しいお酒を自分が造ったお銚子、盃で飲みたい、もてなしたいということからです。今では来宅になるお客さまのおもてなしには、手作りの皿、カップに手作りの料理でというのが我が家の定番になっています。

ご承知の方、趣味を同じにする方も多いと思いますが、私なりの陶芸感のさわりの話をさせていただきます。

物作りがもともと好きな性分で、現在は作品、作風のいろいろなものにトライし、同時に焼成は電気焼成には飽きたらず、7年前には仲間と一緒に3ヶ月かけて千葉県印西市に穴窯を造り、年に2～3回は2晩3日の徹夜焼成を行っています。

最近焼成の様子や、作品が専門誌にも取り上げられて自己満足に浸っています。

過去と違って最近、物流ネットも普及し、陶器ブームも手伝って「陶土」「釉薬」は全国各地の素材が入手できます。一般的な「信楽焼」「備前焼」「志野焼」等々、いろいろな産地焼のまねごとは可能ですが、作陶、作風はやはり作家の工夫や焼き上がり環境、陶土と釉薬、焼成温度、炎の絶妙のマッチングがなければ「お気に入りの器」は出来ないのです。本当に自己満足、お気に入りの作品は年に3個程度が限度のようです。陶芸の醍醐味は身近な土を用いて物を作るという人間が持つ創造の喜びを満足させ



【上】穴窯焼成「花卉」

【左】苔の上の盃

る事と、焼くという事により自分の力の及ぶ範囲を超えた自然の不思議を感じる事ができるという事です。ちなみに陶器を焼く温度は核爆発、核融合、プラズマと言った特殊な現象を除いて通常人間が取り扱う事のできるほぼ最高温度です。全ての現象が昔に比べて巨大化、高度化している現代で昔と変わらないというのは、陶芸の温度というのが、安全に人間が扱える限界であり、そのため不思議が残っているという事かもしれません。

ずいぶん理屈を述べましたが、とどのつまり自分が満足を得たいための成せる技と言ったところでしょうか。ちなみにこれまで何回か展示会も開催しましたが、不思議なことに自分があまり満足していない作品なのに第三者に非常に気に入ってもらい、お買いあげいただくこともあります。ましてや全く同一の作品はほとんど出来ないのです（この辺が素人）、追加注文をちょうだいしても期待に添えないのが辛いところでもあります。読者の皆さんで趣味の同じ方は情報交換しませんか？

39 年目のリニアモーター

東京支部 S47 電子 秋 田 晋 一
ナノパワーソリューション(株)代表取締役社長

上海で本物のリニアモーターに乗車しました。大学祭の動かないリニアモーター事件から 39 年目でした。見学に来た小学生に模型電車を驚づかみにされて飛ばされた嫌な思い出がフラッシュバックしてきました。時速 450km は出ませんでした、時速 300km でとどめていても 6 分で上海空港に着いて無事に生還できました。東京－成田で走らせれば 10 分程でつながることが出来ます。常伝導式のモノレールで作れば 2000 億もあれば出来るでしょう。上海に来たときはタクシーで 1 時間もかかりましたので、距離も近いのでしょうけど、えらい時間短縮です。タクシーでクラッシュ寸前の恐ろしい思いを何度もしないで済んで料金も安い。上海は交通量も東京並、いやそれ以上かもしれません、タクシーに乗るのはクラッシュを覚悟しておかないといけない。来年には上海万博が開かれますが、どういうことになるか心配になってきました。北京オリンピックと同じように車を締め出すことになるのでしょうか。上海からさらに車で 2 時間の長江市の会社に IC の組み立てを依頼していますが、歴史が新しいので日本の工場よりも最新の装置がふんだんに導入されていました。SEM などの解析装置もそろっていてルネサスからの転職者もいました。先日サムソンの知人から電話があり、日本の N 社、T 社から大量に韓国の会社に転職しているそうです。ただし韓国はウォン安のために貿易赤字が増えて 10 年前の IMF 管理の危険が近づいているようです。日本の会社がリストラしている、こういう事になるのでしょうか、技術の拡散は悪いことばかりでもない。そのうちブーメランのように経済効果が戻ってくることもあります。日本の部品が売れたり、日本仕様が普及する可能性も出てきます。

あの大学祭では川島信君が光通信の実験をして皆を驚嘆させていました。39 年目の暴露になりますがスピーカのコーンに剃刀の刃を垂直に接着してレーザ光線の量を変調したもので



が伝送されていきました。去年、彼が教授を勤める中部大学の研究室を訪ねました。360 度以上回転できる光通信ジョイント、不審者の位置を即座に割り出すセンサーネットワーク、水の中でも使える人体通信機、市販の電気オーブンとパワートラを PC で制御する超格安ハンダリフロー装置など楽しいネタが沢山転がっていました。ナノパワーソリューション(株)が人体通信の CMOS IC 化を担当したい目論見ですが、昨今の経済状況ではすべての開発プロジェクトが凍りついてしまいました。会社をいくつも転職するとさすがに 4 つ目位から履歴書を書くときに気が引けるものです。6 つ目で自分の会社を起こすことにしましたが、ベンチャーキャピタルからの出資に始まって、金融ショックのおかげで貸し渋り、貸しはがしとニュースネタをすべて体験しました。ここで倒れると一文無しになるので必死です。背水の陣は人を相当に強くするものようです。

39 年前の大学祭のアトラクションにウイスキーのレッドをオールドに変える実験をやりました。お酒飲めない岩田先生も良くなったかも知れないと言ってくれました。一戸先生、超音波洗浄器をメガネ洗浄やウイスキー改良の目的外に使用したのは私でした、すみませんでした。

レーザを学んで

幹事・東京支部 H4 電子 加 瀬 貞 二

レーザという言葉は当然大学に入る前から知ってはいたが、20世紀最大の発明とも言われるこのレーザが一体何者なのかということを実際に考えたのは、大学4年になって齋藤先生の研究室に入ってからである。当時、研究室では銅蒸気レーザの研究をやっていて、銅の化合物を使用し低温で銅蒸気を得ることや、他の原子を添加することで効率を上げる実験を行っていた。学生の手作りの装置で、自然界には無い独特の単色光を放射させるレーザの発振実験は、レーザの発振原理もろくに分からないのに、なぜかレーザのことを分かったかのような気にさせてくれる、とても興味深いものだった。

大学で多少の知識を得たことで、就職してからもレーザを開発する部門を選んだ。最初に係わった仕事はヘリコプターから送電線と樹木との距離をレーザで測定する装置である。電力会社と共同で、電線や樹木の反射特性を評価し、測距精度を向上させる電子回路などを開発した。

この仕事が一段落したところに、転勤の話が飛び込んできた。茨城県東海村にある日本原子力研究所（現、日本原子力研究開発機構）へ行き、外来研究員として超短パルスレーザの開発に従事するというものである。当時レーザの世界ではパルス幅が数フェムト秒という超短パルスレーザが注目を集めていた。レーザ光のエネルギーをフェムト秒という短時間に圧縮することで、ピークパワーがテラワットを超えるレーザパルスを実現し、高光電場での物性研究が行われていた。そして、ここに在籍した間に、同様の技術では当時世界最高出力となる100テラワットを超えるレーザ開発に携わることができた。レーザのことが、なんとなく分かってきた時期でもあった。

外来研究員としての任務を終え、元の職場へ戻り、さて次はといふところに待っていたのは、「宇宙」だった。

一昨年、月へ向けて種子島から打ち上がり、1年間の定常運用



を既に終え、現在後期ミッション中の月周回衛星「かぐや」に搭載されたレーザ高度計「LALT」の開発が真っ盛りの頃である。プロトタイプモデルの評価がトラブル続きで、メンバーが疲れ切っていたところへ主担当として加わった。LALTは衛星から月面までの距離をレーザで計測し、1年間月を回ることによって月全体の詳細な地形データを収集する。この地形データは、月の内部構造やこれまで未知であった月の極域の研究に使用される。そしてこの研究を進めていたのが奥州市にある国立天文台水沢観測所のメンバーだった。自分と岩手との妙な縁を感じたものである。

LALTの開発は自分が加わってからもトラブルは続いたが、なんとかフライトモデルを完成させた。完成してからは順調で、衛星システム試験、ロケット打ち上げ、そしてついに月周回でレーザを発振させることができた。このとき、初めて今までの苦勞が報われた気がした。自分が担当してから8年後にやっとである。かぐやの運用室で天文台のメンバーと行ったレーザのファーストショットは、自分の社会人生活で最も印象深いものとなった。

岩手大学でレーザを学び始め、レーザをキーワードにいろいろな経験ができた。今後もレーザを学び続け、様々なレーザ装置を開発していきたいと思う。

太田原功先生瑞宝中綬章受勲祝賀会報告

寺 井 正 行（電気 41 年卒）

太田原功先生の瑞宝中綬章受勲を祝う会を、東京と盛岡で開催し、沢山の方々からご賛同いただき、両会場とも大盛会となり、先生ご夫妻にも大変お喜びいただくことができました。

平成 20 年 4 月 29 日、春の叙勲として発表があり、5 月 12 日に国立劇場で勲記、勲章の伝達式が行われました。

先生は、私達と同じく岩手大学工学部電気科の卒業生であり、工学部電気系学科で長く教職につかれて多くの教え子を育み、電気科会、電気電子情報科会と一祐会で、長年要職を担ってこられた方でありますので、先生の受勲は特別身近に感じ、嬉しさも格別なものでありました。



勲章を胸に伝達式当日の
太田原先生

5 月 12 日の伝達式直後から、教え子を中心に有志合い語らってお祝いの準備を進め、発起人として開催にご賛同いただいた 62 名の方々と共に、2 千 3 百余名の方に趣意書を送りました。

9 月 6 日に東京、10 月 4 日に盛岡でお祝いの会を行い、先生の教え子や科会の先輩等、先生を慕う多くの方々が集い、和やかな中に心を込めて盛大にお祝いすることが出来ました。

参加者は、東京 87 名、盛岡 65 名、趣旨に賛同してお祝いを託していただいた方は 230 名と 2 組織（一祐会関西支部、同北海道支部）でした。これほど多くの方々からお祝いのお気持ちをお寄せいただくことが出来ましたのも、先生の、何事にも真摯な姿勢で取り組まれるお人柄によるものと、改めて感じさせられました。

盛岡の会には、先生が岩手大学学生部長をお勤めになった時の学長だった船越昭次先生や、卒業学科を越えて機械科卒業の渡邊喬先生のお顔もありました。両会場とも、科会の大先輩が大勢お見えになりました。電気系の卒業生としては、昭和 16 年卒から平成 11 年卒までの、ナント 60 を数える年齢差の、多くの方々が祝意を表されました。参加者は、各々の都合の良い会場を選択し、先生とお会いしての会話を楽しみ、久々に顔合わせする同期生や先輩と祝杯を挙げて、楽しい時間を過ごされたと思います。



10 月 4 日 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウィング

祝賀会の趣意書は、主として教え子の方々に
お送りしましたので、電気系学科以外の皆様や、
先生が長年ご活躍された科会の先輩諸氏にはご
案内が行き届かなかったにもかかわらず、この
ようなご参加をいただいたことは、偏に先生の
ご人徳に拠るものと敬服するばかりです。

先生の益々のご健勝を心から祈念致します。

ご賛同いただいた皆々様に、改めて御礼申し
上げます。

・科会東京支部のホームページ（下記URL）
で詳細をご覧くださいことが出来ます。

[http://iueeitokyo.web.infoseek.co.jp/
ootawarajokun/jokun0805.html](http://iueeitokyo.web.infoseek.co.jp/ootawarajokun/jokun0805.html) - 勲章伝達式

[http://iueeitokyo.web.infoseek.co.jp/
ootawarajokun/syukugakai.htm](http://iueeitokyo.web.infoseek.co.jp/ootawarajokun/syukugakai.htm) - 祝賀会

・事務局は、盛岡3名、東京7名でしたが、科
会事務局・電気系在学生の皆さんにもお世話
になりました。御礼申し上げます。

先生から「受勲祝賀会ご賛同の皆様へ」とし
て、御礼状をいただきました。その一部分を、
ご紹介させていただきます。

~~~~~

平成二十年春、不肖私が瑞宝中綬章を受章致  
しましたところ、皆様から身に余る祝意を頂戴  
し感激致しております。（中略）

沢山の懐かしい参会者の顔！顔！顔！に感激  
し、結果として私の挨拶は懐旧談に終始し、迂  
闊にも伝達式と拝謁には殆ど触れず了いであっ  
たことお許し下さい。

卒業生の皆様と同窓であり、教員でもあった  
者として、学内外で共に学び、共に磨き合えた  
ことを、そして連綿として続いている皆様との  
温かい誼を幸せに思っております。

私の受勲は、皆様方の支えとご協力の賜物で  
あります。皆様に喜んで頂き、共に祝い酒を飲  
み交わすことが出来たことに、厚く御礼申し  
上げます。

ありがとうございました。

平成二十年十一月吉日 太田原 功

~~~~~



9月6日 アルカディア市ヶ谷

－草刈賞－

《草刈賞の由来》

盛岡高等工業学校電気科ならびに盛岡工業専門学校電気科卒業生（全10回の卒業生）、岩手大学工学部電気工学科、同電子工学科において、草刈先生の教えを受けた昭和45年3月までの卒業生、並びに岩手大学工学部電気工学科、電子工学科教職員としてご薫陶頂いた教職員、以上の有志約90名が相はかり、「草刈先生ご生誕100年記念事業実行委員会」を組織して上記の卒業生と教職員約1000名に呼びかけて募金活動を行い、成就した事業の一つである。草刈賞の他、追悼法要、思い出を語る会、胸像の建立を行った（会誌「きたかみ」50号参照）。

《草刈賞の趣旨》

ご略歴にあるように、先生は旧電気工学科を中心として、岩手大学の基礎を築かれた方である。先生のご業績を称え、後世にその教えを伝えるために、電気電子工学科ならびに、情報システム工学科卒業生の中から、意欲的な学生生活を送り後輩の模範となる学生に草刈賞を授与することによって、学部学生の向学心を啓発することを旨とする。



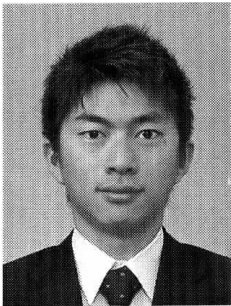
草刈メダルと賞状

これと同じメダルを記念にほしいという会員の希望により用意しました。1個6,000円（通し番号なし、賞状なし）。
購入希望の方は事務局まで

第5回（平成19年度）草刈賞受賞者

《電気電子工学科》

電気電子工学科 八 木 一 平



平成19年度の草刈賞を受賞し、岩手大学で過ごした4年間がこうした形で評価され大変光栄であるとともに、お世話になった多くの方々に感謝いたします。

大学入学当初から、何事にもチャレンジするをモットーに様々な活動に取り組んできましたが、特に思い出深いのは大学間で行われたロボコンプロデュースという大会に参加したことです。これはロボットだけでなくゲームのルールやフィールドまでをトータルプロデュースするものであり、参加団体の創造性が大いに試される場でした。そこにメンバー募集のポスターを見た意欲的な学生達と互いに知恵を絞りながらゲームを作り上げていくのは非常に刺激的でした。また互いの思いやアイデアをまとめ上げ形にすることは技術を習

得するのとは違った力量が試されるということ学びました。そして、皆の努力の成果もあり我々のチーム『チャグチャグ』はゲーム性、創造性を高く評価され、この大会で優勝することが出来ました。

現在は、岩手大学大学院に進学し、ドイツにて企業研修等（1年間・休学中）をしています。当初ドイツ語が不便であったため悔しい思いをすることも多々ありましたが、最近では人の助けを借りるなどしてどうにか問題を克服できるという自信ができました。インターン先の企業ではモーターの構造や設計について学び、回転数計測システムの実用化に向けて解析等を行っています。

今後、岩手大学に復学し、ドイツで学んだスキルを生かしつつ研究に励んでいきたいと思えます。

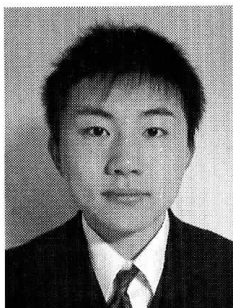
受賞理由

八木一平君は、2004年8月、日本機械学会メカトロニクス教育研究会等が開催した『ロボコン・プロデュース・コンペティション』にチーム（4名）の一員として参加し、提出した作品「今日のわんこ」が大賞（優勝）を受賞した。この大会は、小中学生向けのロボットコンテストであり、その面白さ、独創性、技術内容などの提案・説明能力を競うものである。八木君は競技コースとロボットの設計・製作を担当し、チームの優勝に大きく貢献した。この作品は、その後「岩手大学ロボットコンテスト」でも2年間使用され、好評を博した。

在学中、オーストラリア・モナッシュ大学の国際研修（1ヶ月間の語学留学、工学部正規科目）に参加した。卒業後は本学大学院工学研究科に進学が内定しているが、申請していた日欧産業協力センターの「ヴルカヌス・イン・ヨーロッパ」事業の派遣者に選ばれたため、大学院を1年間休学して4ヶ月間の現地語学研修、8ヶ月間の企業研修（独・NIDEC MOTORS & ACTUATORS社）中。また、平成16年度入学の同期会を率先して企画し、これまで2回開催して相互の親睦を深めた。このように八木一平君は、意欲的で充実した学生生活を送った。

《情報システム工学科》

情報システム工学科 村上 智 哉



草刈賞を頂いてから既に一年という時が過ぎました。年々加速してゆく体感時間の時計の針は、「少年老い易く学成り難し」という言葉の重みと、学生という立場の貴重さを教えてく

れているような気がします。

現在も、草刈賞を頂くきっかけとなった文章間類似度算定法の研究を岩手大学大学院で続けており、本来の目的である重要文書の流出検出・防止システムとして運用するためのプロトタイプ開発がようやく形になり始めたところです。より簡便な記述の許されるスクリプト言語を用い、実験の結果や新たな発想が生まれるたびに増改築を繰り返してきた設計を練り直し、より洗練された形に再構築することが目下の目標です。

研究するための快適な環境が与えられているということ。それがどんなに有難いことか、素晴らしいことかを語るには私はあまりにもモノを知らない未熟者だと思います。それでも、ただひたむきに、知的好奇心のままに学究に励むことの楽しさを、私はここに書き綴らずにはいられません。理系離れが叫ばれて久しいですが、どうか私たちのさらに下の世代には、イメージだけで理系の道を忌避することだけはしないでもらいたいと、心から願っております。

現在の社会情勢はお世辞にも安定しているとは言い難く、不穏な空気が漂う中ではありますが、次代を担う我々若い世代が萎縮しては新たな風が吹き込むことはない信じ、これからも、学部生時代に頂いた草刈賞の名に恥じぬよう、精一杯日々の研鑽に邁進してゆこうと思います。

受賞理由

村上智哉君は2008年1月21日に開催された情報処理学会自然言語処理研究会で、「辞書に依存しない文章間類似度の比較評価手法」という表題で発表し、その適用範囲の広さと処理性能に優れた解析手法について高い評価を得た。その内容は、情報漏洩の事実を証拠として把握する技術へのニーズの高まりを背景に、厚井研究室が三菱電機(株)情報技術総合研究所ネットワークセキュリティ技術部後沢主幹研究員と共同研究で行っている調査・研究活動の成果を纏めたものである。具体的には、予め定めた比較データと入力データとの類似度を計算するものであり、企業内の機密情報の流出を検知する装置に適用される。企業側の複数の研究メンバがこの共同研究に参加しているが、研究の中心的な役割を果たす彼の卓越した発想力と分析力を評価している。

卒業後は、本学大学院工学研究科に進学。



早いもので、草刈賞を受賞させていただいてから1年が経とうとしています。

私の大学時代を一言で表すならば、「ラグビー」でしょう。受賞理由の一因となった活動として、マネージャー業務の体系化・階層化が挙げられました。しかし、これは私一人の力ではなく、他のマネージャー、ラグビー部員、そして監督・コーチのお力添えがあったからに他なりません。

どんなにツライことがあってもラグビー部を退部しなかったのも、部員たちを最後まで支え続けたい、仲間であり続けたいという思いがあったからです。

このように思える仲間に出会えたことを、こ

の場を借りて感謝させていただきます。

さて、現在私はIT系企業に就職し、仕事に追われる日々を送っています。その中で最も感じることは人とのつながりの大切さです。お客様との関係はもちろんのこと、上司と部下（私にはまだいませんが。。。）、グループ内でのつながりが仕事を進めるうえで非常に重要であると思います。不思議なもので、この関係がうまくいっていないグループは、仕事上の連携がうまくとれず、失敗プロジェクトとなるケースが多いようです。

会社でも、ただ業務をこなすだけでなく、大学時代に出会えた仲間たちのような人に出会えるよう、またそのような関係を築いていけるよう頑張っていきたいと思います。

受賞理由

阿部めぐみ君は入学以来、学業とともに、新入生歓迎実行委員会委員、ラグビー部マネージャーなどの活動を積極的に行って来た。

新入生歓迎実行委員会は、4月の新入生歓迎行事として学部・学科オリエンテーションを運営する他、オープンキャンパス、大学祭、各種入試における道案内、相談室開設、パンフレット作成・配布などを行っている。阿部君はこの実行委員を3年間努め、2年次には会計を担当した。

ラグビー部ではマネージャーを主務として、物品管理・登録、金銭管理、遠征の手配、申請書等の作成などの役割を担当した。また、岩手大学の地域連携振興事業としての「青少年向けラグビースクール」において、大学との連絡調整など裏方的な仕事を務めた。更に、マネージャーの役割や仕事を明確化し、後輩マネージャー育成のための体制を整備したことでも実績を残した。

阿部君は、学業についても積極的であり、成績も学年のトップクラスである。卒業後はNECソフトウェア東北株式会社へ就職。

《支部だより》

平成 20 年度東京支部大会

東京支部長 澤 藤 隆 一

東京支部の活動はホームページに詳しく載せております。金属物性科会やきたかみ会(資源・土木)、東機会(機械)総会の内容も掲載して、言わば一祐会東京支部的役割を果たしております。IUEEITOKYO とインターネット検索エンジンで入力しますと出てきます。

一昨年から支部大会は隔年から毎年開催に変わり、平成 20 年 9 月 6 日(土)アルカディア市ヶ谷にて行われました。参加者は 78 名、盛会でした。澤藤も支部長として 5 年目に入りましたが、今大会では山口裕氏(S48 電子)と大阪に転勤された畠山主氏(S54 情報)が退任され、新たな役員として副支部長に狩野利之氏、会計に菊地紀幸氏(共に S61 電子)の就任が承認されました。事務局 2 年目となった加瀬貞二氏(H4 電子)とともに役員が一段と若返ったこととなります。支部大会は会員各位の交流の場として最大のイベントですが、同窓会の存在意義としてはそれ以外に会員の皆様に情報を提供し、会員相互の交流や扶助、親睦を図り、大学を支援することであると考えます。そのため一祐会傘下の他会との交流や、岩手県、盛岡市東京事務所との協力体制も構築してきました。特に岩手大学が行う「新技術説明会」や「産学官連携交流会」にも積極的に参加すべく会員各位にメールを送りました。またいわてネットワークシステム(INS)の行事へも会員参加を呼び掛けております。東京支部では役員会や幹事会、本部総会、一祐会総会、新会員歓迎会、また仙台支部総会への飛び入りなども含め、飲食を伴う会費についてはすべて支部役員の自己負担としております。ただし東京地区の一祐会の 3 支部(東京金属物性科会、東機会、きたかみ会)とは相互に来賓交流しており、そのお祝い金は公金出費です。平成 20 年度は大会の他に支部役員会を 4 回、学年幹事会を 1 回行いました。学年幹事に



支部長と支部大会ご来賓の柏葉会長

については、同期の絆が強いことから会員の横の連絡を学年幹事をお願いし、科会活動への参加促進と通信費削減を狙いたい、また縦の交流も図りたいということで考えておりますが、まだ十分な組織化ができておりません。今年は本部の幹事を東京支部からも出すことに規約が変わりましたので、日頃東京支部活動にご支援頂いている方の中からお願いしました。今後本部の活動に対してもどんどんご意見を頂きたいと期待しております。

支部単独の活動として、会員講師のセミナーを始めました。手始めに、現役世代を主対象に、秋田晋一氏(S47 電子)の「ベンチャー起業苦難物語」を大井町駅前の「きゅりあん」で行いました。きたかみ会からも 3 名のご出席を頂きました。平成 21 年は熟年世代を主ターゲットに「健康、お金の運用、ボランティア活動等、生活に役立つセミナー」を企画します。また支部大会を 1 年毎にフォーマルな形と、くだけた懇親会で行うと宣言しておりますが、平成 21 年は後者なので、なるべく安く楽しく行います。他にも各種企画しますので、どうぞご期待ください。

《支部だより》

平成 20 年度仙台支部総会

仙台支部長 齋 藤 健

仙台支部総会が平成 20 年 7 月 19 日（土）16 時「ハーネル仙台」にて実施されました。

総会は、本部の千葉副会長、藤原電気電子工学科教授、を迎え、さらには特別講演者の佐々木前会長、支部会員 24 名の合計 27 名出席により開会し、齋藤支部長の挨拶、来賓である千葉副会長の挨拶の後、事業報告、横井会計幹事の報告と千葉監事の監査報告があり、これを承認しました。

引き続き、佐々木前会長による特別講演「海外旅行あれこれ」があり、今までのご経験から海外旅行で役立つ様々な事例を中心にお話しをされ、参加者一同これからの海外旅行の参考にと熱心に聴講致しました。

懇親会は、場所を変え、齋藤支部長の挨拶、来賓である藤原教授のご挨拶、の後、出席者の中で最年長の阿部源祐相談役（16 専門 1 回）の乾杯の発声により開会されました。

今回から、学生歌を定着させようと懇親会の冒頭に唱和する等、新しい試みを交えながら、

電気電子情報科会の発展についてや、夫々の近況や持論の主張、夢などについて激論を交わし、惜しみながら学生歌で締め大盛況のうちにお開きになりました。

仙台支部では 3 ヶ月に一度、会員が顔をあわせる機会を持つということで定例会員集会を開催しています。平成 20 年の開催状況は以下のとおりです。

平成 20 年 1 月 19 日（土）長寿を祝う会
於 ハーネル仙台

平成 20 年 4 月 19 日（土）会員卓話
「NGN と地域情報化について」
電気 25 回卒 数藤崇氏会員
於 ハーネル仙台

平成 20 年 10 月 18 日（土）会員卓話
「ヨーロッパの先進地下鉄と仙台地下鉄東西線について」
電気第 28 回卒 田代良二会員
於 ハーネル仙台



平成 20 年度 岩手大学電気電子情報科会 仙台支部総会

平成 20 年 7 月 19 日
ハーネル仙台

平成 20 年度盛岡支部総会

盛岡支部長 歳 弘 健

盛岡支部総会

平成 20 年度電気電子情報科会総会並びに盛岡支部総会は平成 20 年 6 月 14 日いわて国保会館にて開催されました。

本部総会に先立って盛岡支部総会を開催しました。今回は支部長の交代で、旗福寛氏を推薦し異議無く承認をうけ決定しました。

幹事については、今回の本部総会において、全国から有能な人材を集める目的で、会則を改正しました。今年度はとりあえず東京支部 10 名、盛岡支部 10 名、仙台支部 5 名の幹事を推薦し、承認を得ました。

盛岡支部は前科会幹事のうち（会則改正により本部から盛岡支部へ移任）14 名の方から移任の承諾を得ましたので、そのうち 10 名の方を今回本部と兼任することで推薦しました。

科会 & 盛岡支部新年会

平成 21 年の新年を迎え、盛岡支部は科会と合同で新年会を平成 21 年 1 月 26 日いわて国保会館にて開催しました。

当日は科会理事会がありましたが、そのあと盛岡支部と合流して行なったものです。昨年の経済不況で意気消沈していたのですが、それを吹き飛ばすべく企画したものです。会は日頃の鬱憤を晴らすかのようなハッスルで盛り上がり盛会でした。

大学の先生からの報告で、本科学生について内定取り消しは無かったとのことで一同胸をなで下ろした次第です。

今回の席上で、前会長佐々木喜八郎氏に対して感謝の花束を贈呈し、労をねぎらいました。



佐藤 匡 S40 気	吉田英夫 S44 気	岡 英夫 S48 電子院	久保田賢二 S42 気	千葉則茂 S50 気	南幅留男 S45 子	木村彰男 H3 情	長田 洋 S62 気	鳥谷部達夫 S56 情
柳橋好子 S45 子	佐藤 信 S57 子	小野寺瑞穂 S29 気	宮手敏雄 S44 気	旗福 寛 S38 気	歳弘 健 S33 気	杉本 務 S33 気	立花龍一 S61 情	大坊真洋 H11 電情博
澤藤隆一 S47 気	齋藤 健 S38 気	太田原 功 S30 気	佐々木喜八郎 S28 気	阿部源祐 S16 専	柏葉安兵衛 S38 気	細川哲男 S24 専	太田圭一 S24 専	

平成 21 年度 岩手大学電気電子情報科会新年会

平成 21 年 1 月 26 日
国保会館

平成 20 年度電気電子情報科会総会

平成 20 年度岩手大学電気電子情報科会総会は、平成 20 年 6 月 14 日（土）盛岡市大沢川原のいわて国保会館において、26 人の出席で行われました。

あたかも、当日早朝に発生した岩手・宮城内陸地震のために、交通がストップし、前日盛岡入りしていた東京支部長以外、遠方からの出席者は全員、地元の駅で足止めをくらった結果の参加人数となりました。

長田洋理事の司会で、佐々木喜八郎会長のあいさつに続き、電気電子工学科学科長岡英夫教授、情報システム工学科学科長千葉則茂教授にご祝辞をいただきました。

議長に井上隆志理事（電気 40 年卒）、書記に

木村彰男理事（情報 H3 卒）が選任され、議事は議長の進行のもと、ほぼ原案通り承認、可決されました。

役員改選で佐々木会長が勇退され、新会長に柏葉安兵衛氏が選任されました。

続いて行われた講演会は、長く放送会で活躍されている、電気 29 年卒の小野寺瑞穂理事による「方言なんだりかんだり ～昔話をかたる～」というお話で、その話術にすっかり魅せられた時間でした。

その後、懇親会では、この春に受勲された相馬重信氏（専門 7 回 23 年卒）と太田原功氏（電気 30 年卒）に祝意を表して花束を差し上げました。



平成 20 年度 岩手大学電気電子情報科会総会

平成 20 年 6 月 14 日 国保会館

年会費納入のお願い

年会費につきましては、皆様のご協力をいただいて第一回目のお願いを終了しました。昨年からは卒業後 10 年に達した方へお願いの文書等を発送しております。

でも、平成 10 年以前卒の方で、納め忘れの方はいつでも大歓迎で受け付けています。
郵便局の振込用紙に卒業年・学科・住所・氏名・電話番号をご記入のうえ、
下記の口座に、よろしく願いいたします。

振込先：岩手大学電気電子情報科会 口座番号：02260-9-64561 年会費：1 万円
(年会費は年 1000 円で 10 年分です)

平成 20 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日 時：平成 20 年 6 月 14 日（土）

15：00～15：45

場 所：国保会館 26 人出席

議 長：井上 隆志（電 40 年卒）

書 記：木村 彰男（情 H3 年卒）

・第 1 号議案、第 2 号議案について

事務局より、平成 19 年度事業 3 件および平成 19 年度決算について資料に基づき説明があり、続いて及川会計監査より監査報告が行われた。特に異議なく、承認された。

・第 3 号議案、第 4 号議案について

事務局より、平成 20 年度事業計画案 4 件（その他含む）、および平成 20 年度予算案について資料に基づいて説明が行われた。さらに、太田原相談役より事業計画に記載されている草刈賞委員会に関する補足説明がなされ、特に異議なく承認された。

・第 5 号議案について

平成 20 年度科会役員について、事務局より以下の内容について説明があった。

会長を柏葉氏（新任）に交代し、佐々木前会長は相談役に就任

会計監査の旗福氏が退任、久保田氏（新任）が就任

盛岡支部長に旗福氏（新任）、歳弘前支部長は理事に就任

理事の関氏、塚本氏が退任し、新理事に立花氏が就任。

その他の理事については留任

幹事については、東京支部から 10 名（新任）、仙台支部から 5 名（新任）、盛岡支部から 10 名（留任）の 25 名体制

上記の変更点について、特に異議無く承認された。

・第 6 号議案について

事務局より、資料に基づいて規約改定案に関する説明があり、特に異議なく承認された。

・その他議案について

特になし。

以上



若い会員から花束贈呈



受勲のお二人

平成 20 年度電気電子情報科会役員名簿

(平成 21 年 1 月 1 日現在)

役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)	役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)
会 長	柏 葉 安兵衛	S 38 (気 11)	東京支部		
副 会 長	南 幅 留 男	45 (子 1)	幹 事	柴 田 隆 昭	S 37 (気 10)
副 会 長	千 葉 則 茂	50 (気 23)	幹 事	飛 世 政 和	44 (気 17)
副 会 長	鳥谷部 達 雄	56 (情 3)	幹 事	山 田 均	47 (気 20)
理 事	小野寺 瑞 穂	29 (気 2)	幹 事	小 林 秀 雄	47 (子 3)
理 事	歳 弘 健	33 (気 6)	幹 事	在 家 宏	52 (子 8)
理 事	井 上 隆 志	40 (気 13)	幹 事	佐 川 徳 光	52 (子 8)
理 事	田 山 典 男	41 (気 14)	幹 事	山 内 利 明	55 (気 28)
理 事	立 花 龍 一	61 (情 8)	幹 事	菊 地 紀 幸	61 (子 17)
理 事・事 務 局	柳 橋 好 子	45 (子 1)	幹 事	狩 野 利 之	61 (子 17)
理 事・事 務 局	長 田 洋	62 (気 35)	幹 事	加 瀬 貞 二	H 4 (子 23)
理 事・事 務 局	木 村 彰 男	H 3 (情 13)	盛岡支部		
理事・盛岡支部長	旗 福 寛	38 (気 11)	幹 事	宮 手 敏 雄	44 (気 17)
理事・東京支部長	澤 藤 隆 一	47 (気 20)	幹 事	菊 池 政 四	47 (気 20)
理事・仙台支部長	齋 藤 健	38 (気 11)	幹 事	岡 英 夫	48 (子院 4)
会 計 監 査	及 川 二千朗	38 (気 11)	幹 事	杉 村 洋 一	49 (子 5)
会 計 監 査	久保田 賢 二	42 (気 15)	幹 事	池 内 達	50 (子 6)
顧 問	佐 藤 淳	特	幹 事	佐 藤 信	57 (子 13)
顧 問	志 田 純 一	特	幹 事	佐 藤 文 昭	59 (子 15)
顧 問	佐々木 經 夫	特	幹 事	泉 澤 栄	60 (子 16)
相談役 (元会長)	阿 部 源 祐	16 (専 1)	幹 事	高 橋 康 浩	62 (気 35)
相談役 (元会長)	佐 藤 源 美	17 (専 2)	幹 事	佐々木 正 嗣	62 (子 18)
相談役 (元会長)	高 木 三 郎	17 (専 2)	仙台支部		
相談役 (元会長)	岡 田 整 八	18 (専 3)	幹 事	小 原 四 郎	37 (気 10)
相談役 (元会長)	小 沢 甚一郎	18 (専 3)	幹 事	板 澤 正 登	47 (子 3)
相談役 (元会長)	阿 部 長 一	19 (専 4)	幹 事	田 代 良 二	55 (気 28)
相談役 (元会長)	細 川 哲 男	24 (専 8)	幹 事	佐 藤 雄一郎	H 3 (気 39)
相談役 (元会長)	太田原 功	30 (気 3)	幹 事	柏 葉 安 宏	H 9 (電電 2)
相談役 (元会長)	佐々木 喜八郎	28 (気 1)			

平成 20 年度電気系学科の構成員名簿

電気電子工学科 (学科長 岡 英夫 教授)			情報システム工学科 (学科長 千葉則茂 教授)		
分野	職 名	氏 名	分野	職 名	氏 名
電子デバイス工学	教授 助教 准教授 講師 助教	道上 修○ 馬場 守* 岡 英夫 西 館 数 芽* 久保田 賢二○ 叶 榮 彬*	計算機システム学	教授 助教 准教授 講師 助教	厚安 裕司 井倍 正人 谷田 昭史 永鈴 泰仁 平藤 正幸 佐藤 貴司 藤岡 豊太 信
電子システム工学	教授 助教 准教授 講師 助教	田山 典男○ 恒川 佳 隆 長田 真 洋 大坊 宏 明 佐藤 真 明	知能システム学	教授 助教 准教授 講師 助教	渡西 孝志 吉森 清久 三輪 久二 木村 男 盧 彰 忻 中 直 司
電気エネルギー工学	教授 助教 准教授 講師 助教	藤原 民也 山田 浩一 高木 晋也 成田 政治 向川 貴和 高橋 和 貴	メディアシステム学	教授 助教 准教授 講師 助教	千藤 則茂 今野 忠博 原美 晃市 懸田 オサ 懸 田 ひかる

○21 年 3 月ご退職予定

技 術 部					
工学系技術室	職 名	氏 名	情報技術室	職 名	氏 名
技術専門員	技術専門員	千葉 茂樹	副技術室長	阿部 英志	志博
技術専門員	技術専門員	太田 康治	技術専門員	那須川 宏	徳明
技術専門員	技術専門員	萩原 由香里	技術専門員	栗田 頭 徹	宏平
技術専門員	技術専門員	庄司 こずえ	技術専門員	田上 浩	平士
技術専門員	技術専門員	志田 寛	技術専門員	村金 野 哲	

岩手大学工学部電気電子工学科のホームページアドレス

<http://www.eng.iwate-u.ac.jp/jp/dept/elc/index.html>

岩手大学工学部情報システム工学科のホームページアドレス

<http://www.eng.iwate-u.ac.jp/jp/dept/cis/index.html>

平成 20 年 年表

電 気 系 学 科 年 表	
1/10-11	電気電子工学科特別講義／マグネティックス研究会
1/11	平成 19 年度情報処理学会東北支部研究会開催
1/17	平成 19 年度盛岡広域地域産業活性化人材養成等事業，第二回「組み込みシステムセミナー」，「くるまの組み込みソフトウェア事情」中原直司氏（アイシン・コムクルーズ 取締役），マリオス内アイシン・コムクルーズ盛岡開発センター見学
1/19-20	大学入試センター試験
1/23	学系学術講演会，「コンピュータ開発を通じて会社で学んだこと」寺内勇二氏（富士通コンピュータテクノロジーズ）
1/23	第 5 回草刈賞選考委員会，岩手大学電気電子工学科会議室 《選考委員氏名》 電気電子工学科：田山典男学科長、大坊真洋准教授 情報システム工学科：渡邊孝志学科長、鈴木正幸准教授 電気電子情報科会：佐々木喜八郎会長、太田原功相談役
1/25	電気電子工学科社長実践学特別講義，「サバイバルの技術と学卒者への期待」澤藤隆一氏（S38 年電気卒，三基計装 代表取締役社長）
1/25	電子情報通信学会東北支部・先端技術シンポジウム，地域活性化のキーとなる組み込みシステム技術の動向
1/26	科会平成 19 年度第 3 回理事会，いわて国保会館 出席者 14 人
2/1	電気電子工学科社長実践学特別講義，「IT 時代の製造業としての我社」齊藤新一氏（S49 年電気卒，大井電気 代表取締役社長）
2/2-3/29	ソフトエンジニア養成講座（全 8 回），講師：マクロネットワークス代表 厚井裕司氏（岩手大学教授）
2/5-6	平成 20 年度博士前期課程第 2 次入試，電気電子工学専攻 4 名合格，情報システム工学専攻 2 名合格
2/6	入学願書受付締切，電気電子工学科：前期 1.7 倍，後期 5.5 倍，情報システム工学科：前期 1.5 倍，後期 4.3 倍
2/7	平成 20 年度博士後期課程第 2 次入試，電子情報工学専攻 2 名合格
2/15	「きたかみ」編集委員会
2/19-20	情報システム工学科卒業研究発表会
2/20-21	電気電子工学専攻修士論文審査会
2/21	情報システム工学専攻修士論文審査会
2/22	電子情報工学専攻博士論文審査発表会（情報システム工学講座分）
2/25	平成 20 年度個別学力検査前期日程，電気電子工学科 53 名合格，情報システム工学科 47 名合格
2/28	電気電子工学科卒業研究発表会
3/1	「きたかみ」54 号発行 5400 部
3/10	科会新会員歓迎会 岩手大学中央生協 参加者 37 人 第 5 回草刈賞受賞者紹介
3/12	平成 20 年度個別学力検査後期日程，電気電子工学科 6 名合格，情報システム工学科 13 名合格
3/21	岩手大学卒業式（岩手県民会館） 工学部第 56 回卒業生：電気電子工学科 71 名，情報システム工学科 69 名 大学院博士前期課程第 39 回修了生：電気電子工学専攻 38 名，情報システム工学専攻 23 名 大学院博士後期課程第 10 回修了生：電子情報工学専攻 4 名

4/7	岩手大学入学式（岩手県民会館） 工学部入学生：電気電子工学科 68 名，情報システム工学科 75 名 3 年次編入学生：電気電子工学科 10 名，情報システム工学科 1 名 大学院博士前期課程入学生：電気電子工学専攻 23 名，情報システム工学専攻 24 名） 大学院博士後期課程入学生：電子情報工学専攻 4 名
5/10	科会臨時理事会 いわて国保会館 14 人 総会に向けて（規約改定について等）
5/13	計測自動制御学会東北支部第 242 回研究集会 /INS 電子デバイス研究会第 34 回講演会
5/20-30	情報システム工学専攻修士論文中間発表会
5/22	岩手大学電気電子情報科会平成 19 年度会計監査
5/24-25	電気電子工学科新入生宿泊研修（国立岩手山青少年交流の家）
5/24	科会平成 20 年度第 1 回理事会、いわて国保会館、出席者 14 人 総会に向けて（議案書の審議等）
6/1	開学記念日
6/5	平成 21 年度推薦編入学試験 電気電子工学科 3 名合格
6/13, 20	電気電子工学科スポーツ大会
6/14	盛岡支部総会 いわて国保会館
6/14	平成 20 年度岩手大学電気電子情報科会総会 いわて国保会館 30 人 平成 19 年度事業報告、19 年度決算報告・監査報告、20 年度事業計画、20 年度予算、規約改定、役員改選、その他 講演「方言なんだりかんだり ～昔話を語る～」 小野寺瑞穂氏（電気 29 年卒）
6/14	草刈賞委員会創設
7/8-9	平成 21 年度一般編入学者選抜試験 電気電子工学科 8 名合格，情報システム工学科 3 名合格
7/11	平成 21 年度大学院博士前期課程推薦入学者選抜試験 情報システム工学専攻 5 名合格
7/19	科会仙台支部総会 ハーネル仙台 27 人
8/1	平成 20 年度盛岡広域地域産業活性化人材養成等事業「インテリジェントシステム・先端技術セミナー」，「ユビキタス・コンピューティングに向けた高機能表示コントローラ LSI」高見沢一彦氏（ユーフォニック・テクノロジー 代表取締役社長），「ユビキタス時代の人と共生する CMC」藤田欣也氏（東京農工大学教授）
8/2-3	サイエンスパートナーシッププログラム物理生徒対象講座
8/6	オープンキャンパス
8/7	情報システム工学科スポーツ大会
8/23	科会第 2 回理事会 いわて国保会館 14 人 各支部報告、「きたかみ」55 号について等
8/31	ET ロボコン 2008 北海道・東北大会 チーム：がんちゃん ET ドリーム，レース部門第 3 位，モデル審査 C+，総合成績第 10 位
9/1-2	平成 21 年度大学院博士前期課程入学者選抜試験《平成 21 年 4 月入学》電気電子工学専攻 27 名合格，情報システム工学専攻 24 名合格
9/3	平成 20 年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成 20 年 10 月入学》電子情報工学専攻 1 名合格 平成 21 年度大学院博士後期課程入学者選抜試験《平成 21 年 4 月入学》電子情報工学専攻 2 名合格
9/6	科会東京支部大会 アルカディア市ヶ谷 78 人
9/6	太田原功相談役受勲祝賀会（東京会場）
9/16	文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（岩手県立水沢高等学校）

9/17-19	電気電子工学科工場見学《関東地区》(三菱重工業 横浜製作所 金沢工場, 東芝 浜川崎工場, 富士通 川崎工場および研究所, NTT ドコモ R&D センタ, 引率: 成田・向川教員 (参加者 57 名))
9/26	電気電子工学科工場見学《東北地区》(東京エレクトロン東北, NEC 東北, NEC トーキン岩手事業所), 引率: 大坊教員 (参加者 16 名)
9/24-9/26	電気電子工学専攻修士論文中間審査
9/25	平成 20 年度盛岡広域地域産業活性化人材養成等事業「コミュニケーションデザイン工学セミナー」, 「リアルタイム 3 次元バーチャルリアリティの適用事例と今後の展開」伊藤裕二氏 (フォーラムエイト 代表取締役社長), 「サステイナブル社会とデザインの未来」野口尚孝氏 (ジャストシステム デザインリサーチフェロー), 「情報セキュリティとグリーン IT」山田敬喜氏 (三菱電機 情報技術総合研究所 開発戦略部部長)
9/30	平成 20 年度岩手大学修了式・卒業式 (岩手大学農学部付属農業教育資料館) 大学院博士前期課程修了生: 情報システム工学専攻 2 名, 大学院博士後期課程修了生: 電子情報工学専攻 1
10/1	岩手大学入学式 (岩手大学事務局) 大学院博士後期課程: 電子情報工学専攻 2 名
10/4	太田原功相談役受勲祝賀会 (盛岡会場)
10/10	電気電子工学科特別講義, 「アンテナ入門」, 中村 隆氏 (岐阜大学教授)
10/25-26	大学祭 (オープンキャンパス), ミニ講義「コンピュータと画像処理」木村彰男 (岩手大学講師)
10/30	科会「きたかみ」編集委員会 岩手大学工学部
11/1	平成 20 年度盛岡広域地域産業活性化人材養成等事業「インテリジェントシステム・シンポジウム」 特集 1: インテリジェントシステム開発報告 (講演 4 件) 特集 2: 2008ET ロボコン 北海道・東北地区大会から (講演 5 件) 特集 3: 組み込みシステム人材養成について (講演 2 件)
11/7	システム理工学系講演会, 「サバイバルの技術研究開発と学卒者への期待」澤藤隆一氏 (三基計装 代表取締役社長)
11/21	電気電子工学科社長実践学特別講義, 「これからの企業が求める技術者像 一経営者が期待するもの」梅 良之氏 (S42 年電気卒, TTK 代表取締役社長)
11/26	平成 21 年度推薦入学試験, 電気電子・情報システム工学科 29 名合格
11/27	情報システム工学専攻修士論文中間審査発表会 (12 月中旬まで大講座単位)
11/28	草刈賞選考委員会
11/28	電気電子工学科社長実践学特別講義, 「大企業か中小企業か ～他人 (ひと) とり秀でた何かを身につけよう～」池田隆夫氏 (S35 年電気卒, 富士通エフ・アイ・ピー 前代表取締役社長)
12/3	電気電子工学専攻修士 1 年生中間発表会
12/12	学系学術講演会, 「モノづくりとロケットの信頼性について」佐藤一男氏 (宇宙航空研究開発機構 信頼性評価委員会委員長, 元日立製作所専務取締役, 前日本サーボ取締役会長)
12/15-	大学院博士後期課程学位論文予備審査会 (電子応用工学講座)
12/22	大学院博士後期課程学位論文予備審査会 (情報システム工学講座)

岩手大学電気電子情報科会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。
- 第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、並びに岩手大学工学部電気工学科、電子工学科、情報工学科、電気電子工学科及び情報システム工学科（以下この五学科を総称して電気系工学科と呼ぶ）の傘下に集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学工学部電気系工学科に置く。
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。
- 第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

第2章 会 員

- 第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。
- 第6条 特別会員は岩手大学工学部電気系工学科の現・旧教職員とする。
- 第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気系工学科卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気系工学専攻修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。
- 第8条 準会員は岩手大学工学部電気系工学科の在校生並びに岩手大学大学院工学研究科電気系工学専攻学生のうち正会員でない者とする。

第3章 会 計

- 第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。
- 第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。
- 第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査をへて総会に於て承認をうけ併せてこれを報告する。

第4章 会 議

- 第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。
理事会は、会長、副会長、理事及び相談役をもって構成する。
- 第13条 総会は毎年1回会長が之を招集して出席人員を以て成立する。
- 第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認めた時、会長が之を招集する。
- 第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

第5章 役 員

- 第16条 本会に次の役員を置く。
- | | | |
|---------|------|--------------------------------------|
| 会 長 | 1名 | 正会員より選出する。 |
| 副会長 | 3名以内 | 正会員より選出する。 |
| 理 事 | | 正会員より互選する。
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。 |
| 会計監査幹 事 | 2名 | 正会員より選出する。
正会員の中から理事会で推薦し会長が委嘱する。 |
| 顧 問 | 若干名 | 特別会員より会長が之を委嘱する。 |
| 相談役 | | 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。 |

- 第17条 各役員の任期は1ケ年とし、再選出来る。改選は毎年総会に於いて行なう。
但し任期中欠員が出来た場合は役員会に於いて選出し補充する。

- 第18条 会長は本会を代表し其の事務を総括する。
副会長は会長を補佐する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。

- 第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第6章 会誌、講演会及び座談会

- 第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配布する。
- 第21条 講演会及び座談会は随時行なう。
- 第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。
- 第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事が出来ない。

付 則

本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。

(昭和17年1月1日制定)
(昭和25年度総会一部改正)
(昭和37年度総会一部改正)
(昭和40年度総会一部改正)
(昭和41年度総会一部改正)
(昭和46年度総会一部改正)
(昭和50年度総会一部改正)
(昭和51年度総会一部改正)
(昭和56年度総会一部改正)
(平成4年度総会一部改正)
(平成11年度総会一部改正)
(平成12年度総会一部改正)
(平成15年度総会一部改正)
(平成20年度総会一部改正)



ちゃぐちゃぐ馬コと岩手山

編集後記

どこからも景気のいい話が聞こえてこない昨今ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。昨年、岩手県でも大きな地震に2度も見舞われました。でも、「がんばろう！岩手」「元気です！岩手」のスローガンを掲げて、立ち向かっています。

「きたかみ」55号をお届けします。

今回は、予算の制限の中で、より読んでいただける内容にと、少し工夫してみました。

総会の特別講演、太田原先生受勲の報告、東京支部にお任せの4ページは、いかがでしたか。

写真は、小野寺さんの講演にも出てきた「ちゃぐちゃぐ馬コ」が、滝沢村から盛岡に向かっている風景です。

6月第2土曜日、例年なら総会の当日ですが、今年の総会は仙台（6月27日）ですので、その前にゆっくりと「ちゃぐちゃぐ馬コ」見物にいらして、頑張っている岩手を応援して下さい。きっと元気をもらえると思います。

編集委員

会 長	電気38年卒	柏葉 安兵衛
事務局	電気62年卒	長田 洋
	情報平3年卒	木村 彰男
	電子45年卒	柳橋 好子

きたかみ 第55号

発行日	平成21年3月1日
発行者	盛岡市上田4丁目3番5号 岩手大学工学部内 岩手大学電気電子情報科会
	☎ 019-621-6381
印刷所	(株)阿部謄写堂 盛岡市本町通2丁目8番37号
	☎ 019-623-2361

平成 21 年度総会並びに懇親会開催のご案内

平成 21 年度の電気電子情報科会総会は、下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。なお、仙台支部総会も併せて行います。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

なお、住所や勤務先等の確認にも使用させていただきますので、綴り込みのハガキで総会への出欠を、1 ヶ月前の平成 21 年 5 月 27 日までにご連絡を頂きたいお願い申し上げます。

記

日	時	平成 21 年 6 月 27 日 (土)
	草刈先生墓参	午後 1 時 30 分～2 時 00 分 (ご希望の方)
	仙台支部総会	午後 2 時 30 分～3 時 00 分
	本部総会・講演会等	午後 3 時 00 分～4 時 45 分
	本部・支部合同懇親会	午後 4 時 45 分～6 時 45 分

場 所 ハーネル仙台
仙台市青葉区本町 2-12-7
TEL 022-222-1121



- 議 題
1. 平成 20 年度事業報告、決算・監査報告承認
 2. 平成 21 年度事業計画案、予算案審議
 3. その他

講演会 演題「電気系学科再編の背景とそのねらい」 講師：千葉 則 茂 氏 (副会長)

懇親会会費 5,000 円 (懇親会席上で、昨秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。)

連絡先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴り込みのハガキを使用するか、
下記事務局宛電話、FAX 又は E-mail 等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会事務局

(岩手大学工学部電気電子・情報システム工学科 432 号室)

電気電子工学科担当 長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381

E-mail osada@iwate-u.ac.jp

情報システム工学科担当 木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488

E-mail kimura@cis.iwate-u.ac.jp

庶務会計・学外担当 柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253

E-mail t.k-yngbs@nifty.com